



歴史の変遷見守り
まちなか観光の拠点に

桐生織物記念館（桐生織物会館旧館）

桐生織物記念館は、昭和9年（1934）10月に桐生織物同業組合の事務所として建設された。現在の桐生織物協同組合の歴史は古く、明治26年（1893）に桐生町および栃木県菱村、小俣町の織物関連業者により組織された桐生商工業組合を前身とし、明治31年（1898）桐生物産同業組合、明治38年（1905）桐生織物同業組合と変遷し、昭和24年（1949）に桐生織物協同組合に改称している。

織都桐生にあって、常に業界の中枢に位置し、機能してきたのが同組合であり、その拠点が織物記念館であった。戦後の一時期、桐生商工会議所がここに事務局を置いていたことがあった。

基礎を玉石張り鉄筋コンクリートとした木造二階建て、青緑色の洋瓦を葺き、外壁はこの時期に流行したスクラッチタイルを張っている。窓はスチールサッシ、窓の上下はリシン仕上げ、二階窓上部にはステンドグラスを用いて洋風の意匠を引き立てている。

平成13年（2001）から「桐生織物記念館」に改称、一階の「織匠の間」は、展示・販売コーナーとなり、ジャカードの「手織機」をはじめ貴重な道具類をディスプレイに活用、伝統の重みを感じさせる雰囲気のほか、和洋それぞれの織物製品を展示販売している。また、伝統的工芸品「桐生織」の解説パネルや、桐生織物に関するビデオが鑑賞できるテレビコーナーなども設け、桐生を訪れる人たちにとっての情報センター的な機能を担っている。

（参考：きりゅう百景・佐々木正純編）

- 住所／桐生市永楽町5-1
- 開館時間／午前10時～午後5時
- 休館日／毎月最終週の土曜日・日曜日
（8月13日～16日・12月29日～1月3日）
- 電話／0277-43-7272

